

2019年8月23日

自動車部品事業 第1次設備投資についてのお知らせ

本日の取締役会にて、2020年に量産開始予定である現行のディーゼルVG (Variable Geometry) 用ターボ部品の設備投資を決議しましたのでお知らせ致します。

当社は、次代の中核事業として、自動車部品事業を新たなセグメントとして立ち上げ、次世代ガソリンターボとして有力視されているガソリンVG用ノズルベーンを2022年以降、当社の売上の柱にすべく進めて参りました(2019年5月10日発表のNP5Y-Challenge50:新5ヶ年計画)。この度、現行のディーゼル用ノズルベーンを含む、数種類の耐熱ステンレス合金製パーツの量産に関する基本合意契約の締結に伴い、2020、2021年度内に順次量産開始予定である4車種分、月産20万個の生産可能な専用ラインを投資致します。

次世代ガソリンターボにおいて1000度に耐えうるノズルベーンの技術確立に成功したことで当社の高いPIM技術が認められ、現行のディーゼルターボにおいても課題である寸法精度や機械特性を改善出来る点、また、排ガス不正問題でラインナップが遅れていたクリーンディーゼルターボが最近になり、大幅に拡充している点などが今回、2年前倒しで自動車部品量産を開始する理由となりました。

最近のクリーンディーゼルターボは、利点である低燃費、圧倒的な高トルクに加え、これまで欠点と言われていた振動や騒音が大幅に改善され、ガソリンエンジンと遜色のない領域に到達してきたと言われています。ガソリンターボ同様、ディーゼルターボも今後の普及拡大は続くことが想定され、当社は2つの異なる仕様のVGターボ部品の製造メーカーを目指して努力して参ります。

今後、下記内容の承認活動と並行し、今回、決議した量産設備の導入・立ち上げを速やかに進めて参ります。

- 試作(当社)
- 評価(客先)
- 承認(自動車メーカー)
- 量産最終合意
- 検査装置他導入(当社)※今回、投資する新設備、全自動全数検査システム他
- 工程監査
- 量産設備、導入立ち上げ→量産開始(当社)

以上